

物松以来一事沼めんと
存じ忘れ居り昨夜不圓
伯の夢より見れ故今朝
早速名書お返し

一年終上仕山

過日は初めて遠目

か、里川を沿て尚

黒川内二條草の

遠淡話も拝聴

云々得て幸す不少

難有と深謝

先生いふ代の一の

名物より名も僕新

寸記と上り目子

か、里川を沿てと田舎

子於て何やら痛か利

き名申

か、里田の如く

子於て何から 田舎

き不申 仍て 痛か利

二 頼み 或月 にか、り 川

得 以 治 才 にかし 別

さ 守 ぬ 中 上 以 申 也

ナク 小 生 心 荒 也 他

淡 々 聴 々 利 亦 ち 故

何ノ ち 賢 心 也 西 此 以

て 引 取 り 中 以 申 少 じ

亦 変 へ ば 或 身 治 心 以 少 じ

是 怪 一 み たら ち 写 ぬ 様

取 上、 次 四 生 治 心

の 二 印、 必 有 多 少

之 説 又 或 逢 心 以 下

と 様 今 々 録 ぬ

取 上、 心 以 下

取 上、 心 以 下

之説又或逢い
と枝今より
舞上
先にお
建
終

十三日

石川安江
相

大隈公様

虎皮

中添

田舎の居て天下の
命り山や海大の
好了面ふくある
亦変化は生業の切
所み有え何で
の中三つ通も
舞台の興
新

か漆

田舎の住んで天下の事
 分り山や川を大に思ふ
 好く面白くおもしろい
 変化は生業の切迫を
 所も有る何でも一幕
 の中へ三つ通も四つ通も
 舞台の興へ中へ新ら
 しみ顔揃いの良い芝
 居も見られ可や同一の
 面相が同一の處子永く居
 うして見物が堪まりや
 舞台はグル〜興へ
 が宜しき款にや
 伯も成陣に抱い
 こはぬや一草布御
 演舞生業の執理
 元正有る